

東京都 スポーツ推進委員だより

第110号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2017年 1月 30日

編集：情報委員会

社員総会



平成28年度 第2回社員総会

9月28日(水)午後6時30分から武蔵野総合体育館大会議室で一般社団法人東京都スポーツ推進協議会第2回社員総会が行われました。新島二三彦会長より総会参加へのお礼と東京オリンピック・パラリンピックへのスポーツ推進委員としての関わりについて挨拶があり、続いて東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課長関口尚志様からは、特別支援学校とのかかわりについて等のご挨拶がありました。

総会に先立ち、東京都スポーツ推進委員協議会 OB会、会長浅岡様、副会長深瀬様、事務局長平尾様から当協議会へ賛助金の贈呈がありました。



定足数の確認では、出席37名、委任状9名合計46名で正会員の過半数を満たしており、総会が成立しました。議長は定款に基づき新島会長が行いました。

1. 議事について

(1) 報告事項

- 1) 理事会報告(第3回：6月8日)
(第4回：7月13日)
(第5回：9月14日)
- 2) 各委員会報告(企画総務・研修・情報・女性)
- 3) 財務報告
- 4) 全国連合定時総会について<6月2日(木)>
- 5) 関東スポーツ推進委員理事会・総会について<6月3日(金)>
- 6) 関東スポーツ推進委員研究大会(山梨県)について<6月3日(金)~4日(土)>
- 7) 都スポ協会会長について<6月19日(日)>
- 8) ニュースポーツ研修会について<7月23日(土)>
- 9) 東京都初級障がい者スポーツ指導員養成講習会について (A日程 8/6、8/7、8/21、9/3
B日程 8/6、8/20、8/21、9/3)
- 10) 平成28年度全国スポーツ推進委員(功労者表彰・30年勤続表彰・優良団体表彰者)について



11) 平成28年度広域地区別研修会報告

- ① 第1ブロック 7月3日(日) 千代田区
- ② 第3ブロック 9月3日(土) 渋谷区
- ③ 第7ブロック 9月3日(土) あきる野市
- ④ 第6ブロック 9月17日(土) 八王子市
- ⑤ 第8ブロック 9月17日(土) 昭島市
- ⑥ 第9ブロック 9月17日(土) 小金井市
- ⑦ 第10ブロック 9月24日(土) 東久留米市

12) 平成29年度広域地区別研修会事前説明会について<8月24日(水)>

13) 東京マラソン2017におけるボランティア参加について

14) その他

(2) 今後の事業について

- 1) 実務研修会<10月15日(土)>
- 2) 東京都中級障がい者スポーツ指導員養成講習会について
- 3) 女性委員会企画研修会<12月3日(土)>
- 4) 課題別研修会<12月17日(土)>
- 5) 地域スポーツ支援研修会
 - ◆区部 <1月28日(土)>
 - ◆市町村部 <2月11日(土)>
 - ◆全域 <2月18日(土)~19日(日)>
- 6) その他



(3) 協議事項

- 1)平成30年関東スポーツ推進委員研究大会
 <平成30年6月8日(金)~9日(土)>
 6月8日(金) 墨田区総合体育館
 6月9日(土) // その周辺

2)その他

- 議事について提案どおり承認され総会は終了しました。
 記事 情報委員会 才郷 正次 (東大和市)
 写真 情報委員会 田辺 浩一郎 (渋谷区)

社員総会



平成28年度 第3回社員総会

12月14日(水)午後6時30分から牛込筆筈地域センターで一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会第3回社員総会が開催されました。



開会にあたり、新島二三彦会長から5月から新体制となり事業も順調に進んでいることへのお礼があり、続いて、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課長関口尚志様からは各地域でスポーツの振興に活動していることに対しお礼の言葉がありました。



連絡事項では、東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部ラ

グビーワールドカップ2019ワールドカップラグビー担当の小野塚様から日本大会の公式サポーターズクラブについての説明があり、また、一般社団法人東京マラソン財団ボランティアセンター長山本悦子様から東京マラソン2017ボランティア参加についての説明がありました。

定足数の確認では、出席43名、委任状5名、合計48名で正会員の過半数を超えているので総会は成立しました。議長は定款に基づき新島会長が務めました。

今回は都合により議事の順番を変更して進めることとなりました。

1. 議事

(2) 今後の事業について

- 1)課題別研修会<12月17日(土)>
 2)地域スポーツ支援研修会
 ◆区部<1月28日(土)>
 ◆市町村部<2月11日(土)>
 ◆全域<2月18日(土)~19日(日)>
 3)生涯スポーツ体力づくり全国会議2017
 <2月3日(金)>

4)スポーツ推進委員リーダー養成講習会

<2月11日(土)・12日(日)>

5)東京マラソン2017 <2月26日(日)>

6)その他



(3) 協議事項

- 1)平成30年関東スポーツ推進委員研究大会
 <平成30年6月8日(金)~9日(土)>

2)その他

(1) 報告事項

- 1)理事会報告(第6回:10月12日)
 (第7回:11月9日)
 2)各委員会報告(企画総務・研修・情報・女性)
 3)財務報告(会費・賛助金他)
 4)実務研修会<10月15日(土)>
 5)第57回全国スポーツ推進委員研究協議会福井大会及び祝賀懇親会について
 <11月17日(木)~18日(金)>
 6)第12回JOCスポーツと環境・地域セミナー
 <11月18日(金)>
 7)平成28年度広域地区別研修会報告
 ① 第2ブロック 10月29日(土) 荒川区
 ② 第4ブロック 10月29日(土) 板橋区
 ③ 第5ブロック 10月29日(土) 江戸川区
 ④ 第11ブロック 11月25日(金) 新島・神津島
 8)女性委員会企画研修会 <12月3日(土)> 山口委員長
 9)その他

議事について、提案どおり承認され総会は終了しました。

- 記事 情報委員会 沖山 健司 (福生市)
 写真 情報委員会 田辺 浩一郎 (渋谷区)

全国大会



第57回全国スポーツ推進委員研究協議会・表彰

第57回全国スポーツ推進委員研究協議会福井大会が大会テーマ「～スポーツ文化の醸成と地方創生に向けて～」として開催され、内容は以下の通りです。

期日：平成28年11月17日(木)・18日(金)

会場：1日目 全体会 サンドーム福井 鯖江市

2日目 分科会

第1分科会 越前市文化センター大ホール

第2分科会 鯖江市文化センターホール

第3分科会 武生商工会議所会館バレット

ホール

第4分科会 響陽会館
多目的ホール



1日目は12:00から

歓迎アトラクションとして

県立福井農林高等学校

郷土芸能部和太鼓 Taichi の演奏がありました。

続いて、開会式、表彰式があり、表彰式では都スポ

協関係者も受賞されました。

・基調講演では「スポーツに学ぶコミュニケーション」

～元気・活気・勇気を与えるトーク術～をテーマに



講師 岩崎由純氏(日本
ペップトーク普及協会
会長、日本コアコンディ
ショニング協会 会長、ト
レーナーズスクエア(株)
社長)

ペップトークとは、大
事な本番前に指導者が選手や生徒にかける「前向きな
励ましの言葉」「短い激励のメッセージ」。短くて解り
やすく、肯定的な言葉で魂を揺さぶり、人をその気に
させるスピーチができる言葉がけの技術のこと。

・シンポジウム「スポーツがもたらす明るく元気な
未来への創造」について

コーディネーター 柳沢和雄氏

(筑波大学大学院教授)

シンポジスト

山本理人氏(北海道教育大学教育学部岩見沢校
教授)

松岡宏高氏(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

阿部正幸氏(一社東京都スポーツ推進委員協議会
顧問)

園山和夫氏(公社全国スポーツ推進委員連合専務
理事)

2日目は

・第1分科会：「地域住民のニーズに応じた魅力ある
スポーツクラブを目指して」

コーディネーター 山本理人氏(前出)

発表者

・「地域課題解決プラススポーツ」という発想
渡邊優子氏(新潟県 NPO 法人希染々理事長)

・「地域の子どもは地域が育てる！」

三田博司氏(愛知県認定 NPO 法人朝日丘スポ
ーツクラブ 事務局長)

・スポーツクラブを核とした地域づくり～小さくて
もキラリと光るせいきコムスポクラブ～

四谷憲夫氏(福井県 NPO 法人せいきコミュニテ
ィスポーツクラブゼネラルマネジャー)

・第2分科会：生涯現役社会の実現に向けたスポ
ーツ推進委員の役割～スポーツの力で健康長寿社会の
実現～

コーディネーター 松岡宏高氏(前出)

発表者

・地域における運動・スポーツの活動状況からみる
スポーツ推進委員が把握すべきニーズと役割

長岡雅美氏(武庫川女子短期大学部准教授)

・～みんなで力をあわせて元気な町づくり～

長谷川つち代氏(兵庫県福崎町スポーツ推進委
員会副委員長)

・健康エンターテインメントのチカラ～自分が楽し
む健康づくりから人を楽しませる健康づくりへ～

山本進氏(福井県鯖江市健康福祉部健康課課長
補佐理学療法士)

・第3分科会：障害者と垣根を越えたスポーツライフ
～地域住民がともに楽しめるスポーツ環境～

コーディネーター 阿部正幸氏(前出)

発表者

・Uプロジェクトの取組み

片岡優世氏(高知県 一社Uプロジェクト 代表)

・新潟県障害者スポーツ協会と地域のスポーツ関係
者との連携と取り組み～市町村スポーツ担当課、
スポーツ推進委員、スポーツ関係者と共に～

丸田徹氏(新潟県障害者スポーツ協会業務執行
担当理事)

・だれもが楽しめる障害者スポーツの未来図～楽し
もうみんなで、動かそう身体を！～

山本博一氏(滋賀県野洲市スポーツ推進委員協
議会会長)

・第4分科会：新たなスポーツの普及・促進とスポ
ーツ推進委員の役割～ニュースポーツを生かしたスポ
ーツ人口の拡大～

コーディネーター 園山和夫氏(前出)

発表者

- ・～バスタボーで体を動かさない人へのアプローチと競技人口の開拓～ コミュニケーションスポーツとしてのバスタボーで地域活性化と健康増進
篠原徳弘氏（福岡県福岡市スポーツ推進委員協議会 南区委員長）
- ・福井発祥スティックリング普及の最初の一歩～みんなでドキドキわくわく 打つカーリング～
三反崎康子氏（福井市スポーツ推進委員協議会 副会長）
- ・スポーツ弱者を、世界からなくす～ゆるスポーツの挑戦～
澤田智洋氏（世界ゆるスポーツ協会代表）

大会に参加して、第1日目は、全国大会第一位に輝いた福井農林高校の体にドーンと響く和太鼓の音色に心を揺さぶられ、開会式・表彰式と進み、基調講演・シンポジウムとスムーズな運営の全体会でした。ペップトークの話術に吸い込まれ、自然と笑顔になっている会場の雰囲気はとても心地良いものでした。

2日目、私は第2分科会に参加し、発表者の実例を

聞くことができ、一人一人が健康生活を意識した毎日を送る。
（自助）・各事業との協同自主事業の紹介
（共助）・そして（行政）この3つをコーディネーター（調整）するスポーツ推進委員の役割がキーポイントとなることを教えられました。



また、高齢者が元気に活動する姿は世代を超えて皆に波動を送る。自分が楽しむ健康づくりから、人を楽しませる健康づくりへ。地域住民の活動が人から人へ拡大していくことが老若男女、高齢者から乳幼児まで、世代を結ぶネットワークが構築される。元気で笑顔の活動には人が集まりまた人が人を呼ぶ事例でした。自然体で呼吸が続く活動ができれば幸せだと思いました。

記事 情報委員会 白鳥 敏子（北区）

写真 副会長 中川 義英（世田谷区）

<受賞者紹介>

【文部科学大臣賞】



吉江友秋（羽村市）



牧野壽義（瑞穂町）



栗原裕信（中央区）

【スポーツ推進委員 功労者賞】



岡あけみ（羽村市）



野島和博（江東区）



井上充代（文京区）



桑原敏昭（足立区）



赤澤賢一（西東京）

【優良団体表彰】

瑞穂町スポーツ推進委員協議会

【30年勤続スポーツ推進委員表彰】



向かって左から

- 井上芳美 (清瀬市)
- 秦一浩 (東大和市)
- 庄司ミツイ (練馬区)
- 茨田忍 (練馬区)

研修会



初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

今年度も東京都主催『初級障がい者スポーツ指導員養成講習会』が8月6日(土)～7日(日)有明スポーツセンター、8月21日(日)・9月3日(土)多摩障がい者スポーツセンターにて開催され、スポーツ推進委員や各地域のスポーツの指導員など56名が参加しました。



開講式では、(一社)東京都スポーツ推進委員協議会会長 新島二三彦氏、東京都オリンピック・パラリンピック準備局障がい者スポーツ担当部長 菅場明子氏が挨拶され、2020年東京オリンピック・パラリンピック成功へ向け、スポーツ推進委員の力を発揮するよう激励されました。

4日間の研修では、A、Bの二班に分かれ、『障がいの理解とスポーツ(肢体不自由①②)』『障がいの理解とスポーツ(視覚・聴覚障害)』『障がいの理解とスポーツ(知的障害)』『ボランティア論』『障がい者スポーツの意義と理念』『障がいの理解とスポーツ(精神障害)』『障がい者との交流』『全国障害者スポーツ大会の概要』『安全管理』『障がい者福祉施策と障がい者スポーツ』『(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度』を受講し、最終日は閉講式、証書授与と資格申請説明を受けました。

『障がいの理解とスポーツ(知的障害)』

『ボランティア論』『障がい者スポーツの意義と理念』『障がいの理解とスポーツ(精神障害)』

『障がい者との交流』『全国障害者スポーツ大会の概要』『安全管理』『障がい者福祉施策と障がい者スポーツ』『(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度』を受講し、最終日は閉講式、証書授与と資格申請説明を受けました。

皆さん、ご自身の活動に生かすべく、熱心に受講され、質問等もされていました。東京都では2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向け、障がい者スポーツの啓もうに力をいれ、更なる障がい者スポーツ指導員の養成を目指すとのことです。資質向上のためにも、受講者の増加を期待したいと思います。

情報委員会 松田 文子(豊島区)



研修会



実務研修会

10月15日(土)平成28年度実務研修会が墨田区曳舟文化センターにおいて参加者88名で開催されました。

開講にあたり、(一社)東京都スポーツ推進委員協議会島田泰子副会長の挨拶があり、今回の研修は東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて障がい



者スポーツへの関心が高まっている事からアダプテッドスポーツに焦点を当てた研修を企画したとの話がありました。



講師として国立大学法人筑波大学研究員 スポーツR&Dコア(ハイパフォーマンス事

業担当)加藤 達郎氏を迎えて「アダプテッドスポーツの理論と実践法」をテーマに研修しました。



障がい者スポーツには現在も数多くのスポーツ推進委員が関わりを持っていますが、障がい者のスポーツ実施率(年1回)は平成28年では34%、一般成人の80%と実施率の差は歴然です。原因として、やりたいがスポーツ自体が難しく出来ない、ルールに合わせる事が出来ない、障がいの程度が人によって違い一緒にスポーツをすることが難しいなどが挙げられている。

アダプテッドはスポーツに人が合わせるのではなく、

障がいを持った人其々にスポーツを合わせる事で参加者みんなが楽しい運動のできる環境作りが大切で、参加している障がい者の人数だけスポーツがあることで

す。
特にスポーツを楽しむための3つの必須条件は①安全安心、②ルールが分かる③参加できる(機会が保証)障がい者スポーツのゴールボールは、視覚障がい者が対象だが皆が出来るわけではない、大切なのはアダプテッドスポーツとして考え一人ひとりが参加出来る安全安心な環境を参加者に合わせて考えることで、障がいを持つ方もスポーツを楽しむ事で人生がより豊かになる可能性があるとお話を聞き研修を終わりました。

記事 情報委員会 関 隆男 (葛飾区)

写真 情報委員会 仲 豊子 (台東区)

研修会



女性委員会企画研修会

12月3日(土)新宿区立四谷中学校コミュニティールームにおいて、女性委員会企画研修会が行われました。

講師に、走り高跳びパラリンピック代表(シドニー、アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロ大会に出場)の鈴木徹氏を迎えました。



まず、いきなり義足を見せられ、自分は中学校、高校とハンドボール部に所属し、筑波大学へ入学直前に交通事故を起こし、膝下

11センチを残し切断したことを聞かされ大変驚きました。

義足での生活やリハビリを通じて知り合った方々が

きっかけとなり、走り高跳びを始め、現在2m01のアジア、日本記録保持者になられております。

講演の内容は、リオパラリンピックの報告や、子供のスポーツ環境醸成のため必要なことなどで、特に、



子供たちにスポーツの楽しさ、素晴らしさを伝えていきたい気持ちがとても強く伝わってくる内容でした。

また、最後に歩行用義足とスポーツ用義足の違いを、参加者に実際に触れさせながら説明していただき講演は終了しました。

記事 情報委員会 長崎 より子 (千代田区)

写真 情報委員会 稲垣 美保 (中野区)

研修会



課題別研修会

12月17日(土) 午後2時から「調布市文化会館たづくり」で課題別研修会が参加者98名で行われました。



開講式では、関口尚志氏(東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課長)、新島二三彦氏(一般社団法人東京

都スポーツ推進委員協議会会長)から主催者のご挨拶をいただきました。

つづいて、講師の折本昭一氏(東京都教育庁指導部主任指導主事オリンピック・パラリンピック教育担当)から「東京オリンピック・パラリンピック教育」とスポーツ推進委員との関わりについてのお



話があり、オリンピック・パラリンピック教育とは開催都市または開催国が青少年を対象に意義や価値を普及する狙いがある。日本で行われたオリンピック・パラリンピック教育について。リオ大会での教育プログラムの実施状況を視察されたお話がありました。

東京2020大会に向けた教育プログラムでは、学習ノートを活用してオリンピック・パラリンピック精神の理解、スポーツとの関連、文化との関連、環境との関連の事例に基づき学校ごとに進めているお話がありました。特にスポーツとの関連で、スポーツ推進委員が学校との連携に、障がい者スポーツの推進、ニュースポーツの推進等でお手伝いできる良いチャンスになるのではとお話がありました。

その後、学校とスポーツ推進委員とが連携して活動している事例発表がお二人の方からありました。



大塚雅一氏（墨田区スポーツ推進委員協議会副会長）からは、墨田区スポーツ推進委員協議会の活動報告。学校との連携では、ご自分が教師として関わった学校で、スポーツ推進委員が3名となり、PTA、教育委員会、校長会、副校長会へスポーツ推進委員として働きかけたことで、小学校の出前事業として、キンボール、体力測定、校内持久走の支援を実施してきたこと、

平成28年度ではボッチャ教室、走り方教室も実施したとの報告がありました。

千本木勲博氏（小金井市スポーツ推進委員協議会顧問）からは、小金井市スポーツ推進委員の活動報告、市内小中学校の状況報告がありました。

学校との連携では、行政の考え方の中に土曜日の授業に保護者や地域住民の方等がゲストティーチャーとなり学校で生徒への指導ができること。また、市内



小中学校へのヒアリングでスポーツ推進委員へのニーズがあり、スポーツ推進委員内で長年経験し、審判資格も取得するようになったドッチビーの指

導を試行から始まり、現在も引き続き実施しているとの報告がありました。

今回の研修を受けて、学校の中ではオリンピック・パラリンピックと関連付けた授業も始まっており、出前授業を実施している大塚氏、千本木氏の体験からのお話をそれぞれの地域や条件に合わせた方法を見出して活動していくことが必要と感じました。

講師の皆様、貴重なお話ありがとうございました。

情報委員会 才郷 正次（東大和市）

勉強会



女性スポーツ勉強会

10月1日、青山の東京ウィメンズプラザにて、モン・スポ（NPO法人 バレーボール・モントリオール会）主催 第6回「女性スポーツ勉強会」が開催され、311名が参加しました。

リオ五輪女子陸上競技長距離コーチ 山下佐知子さん、リオパラリンピック水泳監督の峰村史代さん、リオパラリンピックの車いす女子マラソンでわずか1秒差で4位になった土田和歌子さん、そして、シンクロナイズド・スイミング監督の井村雅代さんのお話を拝聴できるなんと豪華な勉強会となりました。



それぞれの種目で指導や選手としてご活躍の皆さんですが、その活躍の陰にはたくさんのお話があり、皆さんが試行錯誤しながら記録に挑戦されているお話は大変興味深いものでした。毎

回、女性アスリートの環境や身体に関するタブーとされていることもお話しされ、大変勉強になります。

コーディネートをされる宮嶋泰子さんがいつも『目からうろこが落ちるお話』と言われるのが実感できます。

今回は、終わったばかりのリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックのお話が聞けたこと、また、パラリンピアたちの競技外の様子を映像で見せていただき大変勉強になりました。



後半に行われたシンポジウムでは日本バレーボール協会の強化事業本部長の荒木田裕子さん、婦人科スポーツドクターの高尾

美穂さん、整形外科医の中村格子さんを交え、コーデ

ィネーターの宮嶋泰子さんがパネリストたちから様々なお話を引き出して、内容の濃いシンポジウムとなり、今回の勉強会もあっという間に4時間半が経っていま

した。今後の女性スポーツ勉強会がますます楽しみになりました。

情報委員会 松田 文子（豊島区）

研修会



第12回 JOC スポーツと環境・地域セミナー

11月18日（金）午後1時30分から東京都庁・都民ホールで公益財団法人 日本オリンピック委員会主催、東京都（JOCパートナー都市）共催で「第12回 JOCスポーツと環境・地域セミナー」が開催されました。



開会式のご挨拶は松丸喜一郎氏（JOC常務理事/総務委員長）及び岡崎義隆氏（東京都オリンピック・準備局次長）から

ありました。

対談1では「スポーツに関連した環境に関する取組～東京2020大会に向けて～」をテーマに、コーディネーターに野端啓夫氏（JOCスポーツ環境専門部会部会長/理事）、パネリストに白石隆夫氏（環境省総合環境政策局総務課長）、小坂勉氏（東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部計画担当課長）、田中丈夫氏（（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会接続可能性部長）、吉本讓二氏（（株）アシックス CSR・サステナビリティ部長）が登壇されました。

田中氏からは大会を様々な面から接続可能性に配慮したものとするために、大会の準備・運営について組織委員会等がどのように取り組んでいくのか、その方針や目標、施策などを示した運営計画の策定をしていくとのお話がありました。



白石氏からは大会を契機とした環境配慮の推進について、環境問題を考える意義、考えるべき環境問題等のお話があり、マラソン大会で選手が走った後の散乱した沿道の写真も見せていただきました。

小坂氏からは2020年に向けた環境に配慮した取組について、環境にやさしい次世代のエネルギーの取り組み、未来を担う人材の育成のためにオリンピッ

ク・パラリンピックの学習読本を小学校編、中学校編、高等学校編と活用しているとの話がありました。

吉本氏からは商品のランニングシューズのサステナビリティでは機能を保ちながら、リサイクル素材の活用、製造工程でのエネルギー、廃棄物の削減により、1足あたりのCO2排出量を20%削減できたこと。工場でのエネルギー削減、節電等を実施していることの話がありました。

休憩後、対談2では「スポーツと環境の関わり」をテーマに、コーディネーターに宮下純一氏（JOCスポーツ環境専門部会部会員/オリンピック）、パネリストに上田藍氏（オリンピック/トライアスロン）、富澤慎氏（オリンピック/セーリング）、皆川賢太郎氏（オリンピック/スキー）、藤森涼子氏（NPO法人気象キャスターネットワーク代表（気象予報士））が登壇されました。



宮下氏から競技に参加するとき等で、大切にしている言葉を3人のオリンピ

に発表してもらいました。

富澤氏は予戦が15レース程度あり、フラットな気持ちを維持。落ち着いて、冷静に心を掛けている。上田氏は冷静かつ積極的に。体力に限界はあるが、向上心に限界はない。皆川氏はずるい選択をしない、競技にはまともにぶつかっていくとのお話がありました。

過去のオリンピック大会での各競技種目での環境の変化についての話も出て、リオの海はビーチがきれいでしたが、海が汚れていたとの話も出ました。

その後、藤森氏も加わり、温暖化による2100年の天気予報の紹介では気温が40℃を越え、雨が降らず、台風が大型化になることによる被害が拡大、熱中症の増加、雪が少なくなり冬のスポーツにも影響が出る等のお話がありました。

今回のセミナーに参加して、温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）の削減と出さない工夫をすることが大切であり、各人が関心を持ち、ごみを出さない、

捨てない等の行動を起こすことが大事であることを考えさせられました。

記事 情報委員会 才郷 正次 (東大和市)
写真 情報委員会 佐野 守 (杉並区)

各地区の情報



情報ひろば

<墨田区>

昭和46年、親子で自然を満喫し、ゆったりと健康的なときを過ごすことをねらいとして「親子林間教室」がスタートしました。歴史を重ねながら、毎年趣向を凝らし、充実した事業へと育ててきました。観光バスを連ねて出かけたことや、例年の二泊を三泊に拡大したこともありました。



反面、区教委主催が後援になったことや、長きにわたり活動拠点であった墨田区立榛名高原学園が閉園されたこと、世代ニーズの変化などから、申込者の

減少が課題となった時期もありました。

しかし、私たち墨田区スポーツ推進委員協議会の主

催事業となった今日、今だからこそ、家族でコミュニティーを学びながら、体を動かすことを基盤に、共通の思い出づくりができる「ファミリーキャンプ」は、家族旅行や子供のみ参加型のイベントではなかなか味わえない、貴重なものが得られるとの自負をもち、取り組んでいます。

「小学生と親」という対象を「小学生を含む家族等」へ拡大したり、引率者として従事できない委員に役割を分担し、全員で携わるようにしたり、創意工夫を加えています。「親子林間教室」から「ファミリーキャンプ」と名称はかわりましたが、45年間にわたる歴史をしっかりと受け継ぎ、更に注目される事業にしていきたいと思っています。

墨田区スポーツ推進委員協議会副会長 大塚 雅一

<武蔵野市>

今回も4月29日の「昭和の日」に、ファミリースポーツフェアが行われました。武蔵野総合体育館と陸上競技場を会場として、ニュースポーツや障がい者スポーツをはじめ、50メートル走やソフトボール投げなどを参加された方々は楽しみました。



ファミリースポーツフェアは市が主催しますが、企画・運営は武蔵野市スポーツ推進委員協議会が中心に

なっています。

市の体育協会に加盟している団体からも協力を受け、

種目ごとにブースを設け、スポーツ推進委員や加盟団体が中心になってブースを運営しました。当日は午前から午後まで参加者が溢れました。場所によっては担当者が昼食の時間を十分に取れない程の盛況ぶりでした。親子でタイムや投げた距離を競争したり、慣れないニュースポーツに熱中したりする姿がそこかしこで見られました。今年は1800人という多数の参加者がありました。

スポーツ推進委員協議会としては、市民の皆さんが体を動かす事の楽しさを体験できたのではないかと考えています。これからも、市民の皆さんがスポーツを通じて体と心の健康を増進していけるように支援していきます。来年のファミリースポーツフェアは、施設改修の関係で「秋」の開催を予定しています。

武蔵野市スポーツ推進委員 荒巻 茂行

<小平市>

小平市のスポーツ推進委員は20代から50代の21名で構成しており、様々なイベントを企画・運営

しています。代表的なものとして、年2回開催している未就学児とその保護者を対象とした運動会「親子でヨーイドン!」、年3回開催している「ニュースポー

ツデー」があります。

特に、「ニュースポーツデー」は毎回約200名の幅広い年齢層の市民にご参加いただいています。



また、当市の社会福祉協議会と協力し、ポッチャブースを設けることで障害のある皆さんとの交流を行っております。

小平市スポーツ推進委員会は、非常にアンテナ力と行動力がある委員会です。既存のスポーツだけでなく、

ここ数年で誕生したスポーツや、まだまだ名の知られていない障害者スポーツなどの情報を収集し、先駆者の講習や体験会などに積極的に参加しています。

世界中のアスリートが集う東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、気運が日々高まっている中、小平市スポーツ推進委員としてこれから成すべき役割をそのアンテナ力と行動力で開拓していく事が肝要だと感じます。今後も、生活とスポーツのコラボレーションによる地域活性化を目指してまいります。

小平市スポーツ推進委員 春日 千晶

編集後記

今号は時期的に多くの事業が実施され報告事項が多い中、皆様のご協力で都スポだよりが発行でき、お礼申し上げます。

今年は平成30年6月の、関東スポーツ推進委員研究大会（東京にて開催）に向けて、今年6月の栃木大会までに大会テーマと講師の選定など、引き続き運営マニュアルの作成と大会プログラムの作成などの作業を予定しています。それらの作業は実行委員会や拡大委員会のメンバーとして一般会員の皆様の協力が必要となります。また、東京都スポーツ推進委員協議会60周年の記念誌発行も予定しています。

情報委員会としてこれからも頑張っていきますので、会員の皆様のご協力とご指導をお願いいたします。

編集 情報委員会 関 隆男（葛飾区）

#####